

ポイント：多面的・多角的な考えを引き出し、ねらいとする道徳的価値に気づくことができる工夫

第4学年 組 道徳科学習指導案

令和 年 月 日 () 校時

指導者 ○○ ○○

1 主題名 すなおになって (内容項目：A(2) 正直, 誠実)

2 教材名 梨の実 アンリ=ファール [出典：「道徳4 きみがいちばんひかるとき」光村図書]

3 ねらい ポイント：分析的にねらいを表記する。

隣の家の梨の実を取ってしまったことを正直に伝えたアンリ的心情を考えることを通して、過

↑
主となる学習活動

ちを認め、素直に改めることの大切さに気づき、自分自身に正直に明るく生活しようとする態度

↑
ねらいとする道徳的価値

↑
育てたい道徳的諸様相

を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

過ちや失敗は誰にでも起こりうることである。大切なのはその事実を受け止め反省し、これからの生活に生かそうとする姿勢である。ところが、人はそのことをごまかそうと嘘を言ったり、隠したりするような振る舞いをしてしまうことがある。しかしそれはあくまでも一時しのぎに過ぎず、真の解決には至らない。

他者に対して嘘を言ったりごまかしたりすることは、自分自身をも偽り、後悔や自責の念が生じることにつながる。正直に言えなかったことを後悔したり、嘘が知られないかとおびえたりして生活することは苦しいものである。たとえ兄弟であっても、仲のいい集団の中であっても、周囲に安易に流されない強い心を持ち、過ちを犯したときには、それを改めていく素直さを持ち、過ちであったことを正直に伝えようとする誠実な態度を育てたい。

ポイント：同じ内容項目の教材について、ねらいとする道徳的価値を表記し、重点をおいて指導する内容を明確にする。

時期	主題名・教材名	ねらいとする道徳的価値
9月	正直な心で 『「正直」五十円分』	自分自身を偽ることなく明るい心で伸び伸びと過ごそうとする 〔良心に従って正直な行動を選択する〕
2月	すなおになって 「梨の実 アンリ=ファール」	過ちを犯したことを素直に認め、自分自身に正直に明るく生活しようとする。 〔過ちを素直に反省し明るく生活する〕

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、誰とでも協力しようと心がけている様子が多く見られ、友達を大事にしようとする思いが強い児童が多いと感じている。しかし同時に、友達を大切にすあまり流されやすく、判断を誤り失敗することもある。そんな時、大人の声掛けがあれば自分の過ちを認めることができるが、子ども同士では難しいことも多い。また、自分の過ちを素直に認めることができないことで、周りの友達からの信頼を築きにくい児童もいる。過ちを素直に認めることを恥ずかしい、悔しいと思う気持ちも察することはできるが、自分を偽り強がることは、自分のためにも周りの人のためにもならない。自分の過ちを反省し改めようとする態度が、明るく気持ちよい生活につながるということに気づいてほしい。

(3) 教材について

本教材は、フェアブルの幼少期の話で、弟に言われるまま悪いことをしてしまい、後ろめたい気持ちを持った主人公が、父親の問いかけに素直に過ちを認め、一緒に謝りに行くお話である。同じように流されて後悔した経験がある児童は多く、主人公に自我関与して心情を考えやすい教材である。「正直にしなければならない」「お父さんを悲しませてはいけない」というような表面的な理解でとどまらず、正直にするのは、他の誰のためでもなく自分自身のためであることに気づかせるのに適した教材でもある。そして、その過ちを誰のせいにもせず、素直に認め、改めようとする、そのような生き方の誠実さを感じてほしい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、次のような点に留意して、本主題のねらいが十分に達成できるようにする。

- ①導入では、アンリ＝フェアブルについて話をし、子どもたちに興味関心を持たせる。そして、偉人であっても、自分たちと同じような過ちをしていることに児童が気づき、自分たちとアンリ＝フェアブルの接点を見出し、自我関与できるようにする。

ポイント：内容項目A(1)「善悪の判断、自律、自由と責任」の指導にならないように留意する。


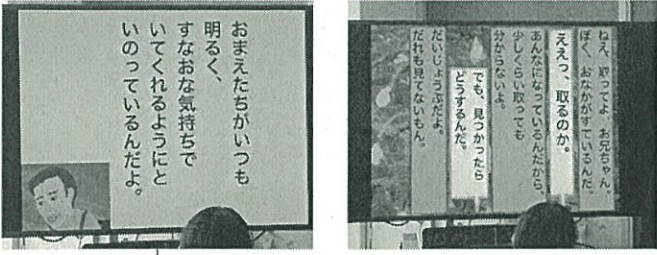
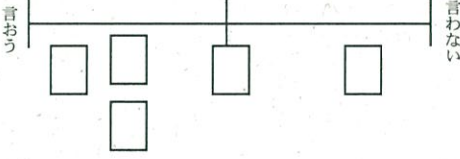
- ②教材文から、アンリは梨の実を取りたくなかったことに気づき、弟の頼みを断れなかったただだから悪くないと考える児童もいるだろう。しかし、「悪いことをしてしまった」と思っているアンリの心は苦しいままになる。善悪の判断ではなく、やってしまったことをどうするのがよいのかを考える。

ポイント：主人公に自我関与し、多面的・多角的な考えを引き出しやすくするための工夫

- ③お父さんの前で黙ってうつむいているアンリの気持ちを、心のものさしを使って視覚的に表すことで心の葛藤に気づかせる。

- ④学習を通して学んだこと、友達の考えを聞いて思ったことなどを、これからの自己の生き方についてつなげて振り返る。今後自分の過ちを素直に認め、改めようとする態度を育てたい。

5 本時の学習過程

学習過程	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の思い	◇指導の手立て ・補助発問
<p>1 アンリ=ファールブルについて紹介する。</p> <p>2 教材「梨の実 アンリ=ファールブル」を読んで話し合う。</p>	<p>○アンリ=ファールブルを知っていますか。</p>  	<p>◇実在した人物であること、ファールブルの偉業を伝えることで、教材に関心を持たせる。</p> <p>◇ICT 機器を活用し、教材文で必要な箇所をモニターに映し出して、可視化する。</p> <p>◇範読後、心に残っていることを発表させ、本時の【考えること】につなげる。</p> <div data-bbox="916 819 1442 1093" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント ○心に残っていることから、【考えること】を引き出し、児童が主体的に学習に取り組む姿勢を期待する。</p> </div>
<p>(1)父の前でうつむくアンリの心情を考える。</p>	<p>【考えること】まちがいをみとめ、すなおに改めることはなぜ大切なのか？</p> <p>◎お父さんの前でうつむくアンリは、言おうと思っているの。言わないと思っているの。それは、なぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんは、ぼくがやったと思っているのかな。 ・悪いと思っているから、正直に言わないといけない。でも、なんて言おう。 ・怒られるといやだから言いたくない。 ・本当のことを言おうか、嘘をつこうか、どうしよう。 ・弟にせがまれたから取っただけ。ぼくは、悪くないのに。 ・弟が食べたんだと、嘘をつこう。お父さんには、ばれないだろう。 <div data-bbox="379 1778 895 1939" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント ○補助発問を想定しておき、児童の考えを揺さぶったり、広げたりする。</p> </div>	<div data-bbox="916 1205 1442 1599" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ポイント ○心のものさしを使い、視覚化することで、多面的・多角的な考えを引き出し、アンリの心の葛藤に気づくことができるようにする。</p>  </div> <p>◇ネームプレートをそこに置いた理由を発表させ、内容でグループ分けする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言わなかったらばれないんじゃないのだろうか。 ・嘘つきの自分を抱えてずっと生活することをどう思いますか。 ・正直に言っていることあるのかなあ。お父さんに怒られるだけだと思うけれど。

<p>(2)正直に言う アンリの心 情を考える。</p>	<p>◎アンリはなぜ体をふるわせながら、「ごめんなさい。」と言いだしたのでしよう。</p>	<p>◇お父さんの話を提示し、父親のアンリを思う気持ちにも触れ、アンリが、「ごめんなさい。」と言いだした心情を考えさせる。</p>
<p>3本時の学習を 振り返り、自 分との関わり を考える。</p>	<p>・素直な気持ちでいてほしいという父の願いを裏切らないためには、謝らなければならない。 ・お父さんやお母さんは、こんなにぼくのことを思っているんだ。怒られてもいい。本当のことを言わなければ。 ・嘘をついたままだと、心の中のもやもやが取れず、明るく生活していくことができない。 ・父の自慢の息子らしく、正直で堂々とした人間でいたい。</p> <p>○自分は今まで、まちがったことを素直に改めてきたのだろうか、振り返ってみましょう。そして、なぜ、それが大切なのでしょう。</p>	<p>◇書く活動を取り入れ、じっくりと考えることができるようにする。</p> <p>◇過ちを正直に伝えることで、心のもやもやが晴れることに気づかせる。</p> <p>◇自分に嘘をつかず過ちを素直に認め、改めようとすることで明るく生活できることを考えさせる。</p>

ポイント
 ○4つの視点「道徳的価値理解」「自己を見つめる」「多面的・多角的な考え」「自己の生き方」での児童の反応を想定しておく。児童が書いた内容を分類することができ、大きくりなまとまりとしての評価に役立つ。

【期待する児童の反応】

- ・悪いことをしてしまったり、失敗してしまったりしたとき、正直に伝えると気持ちよく生活できるな。(道徳的価値の理解を基にして)
- ・悪いことをしてしまったりしたとき、反省したことをきちんと伝えてスッキリした気持ちになったことがあるな。
- ・悪いことをしてしまったりしたとき、人のせいにしてしまったりしたことがあった。これからは自分の過ちだと認められるようになりたい。(自己を見つめて)
- ・もやもやしたままなのは嫌だから、自分のまちがいを認められるようになりたいけれど、素直に認めるのは勇気のいることだと思う。(多面的・多角的に考えて)
- ・これから失敗することはあるかもしれないが、自分の心に嘘をつかず、悪いことをしたら素直に認めて改め、気持ちよく生活していきたい。(自己の生き方について考えて)

<p>4 教師の説話</p>	<p>○先生が子どもたちの出来事を話します。</p>	<p>◇嘘をついたことを相手が信じてしまうことで、それが相手を裏切ってしまうことにつながることに気づかせたい。</p>
----------------	----------------------------	---

【評価の視点】

- お父さんに問われた時、うつむくアンリの心情を多面的・多角的に考えている。
- 自分との関わりの中で、隠し事をして心が重くなった経験や、正直に言って明るい気持ちになった経験を思い出し、これからの生活について考えを深めている。

「梨の実 アンリニアール」

梨の実がいつぱいとれてもよろこぶアンリ
 本当のことを話したアンリ
 やさしいお父さん

④ まちがいをもとめ、すなおに改めることは、なぜ大切なの？

となりの家の梨の実を取る

まずしい
 ゆとりのない生活

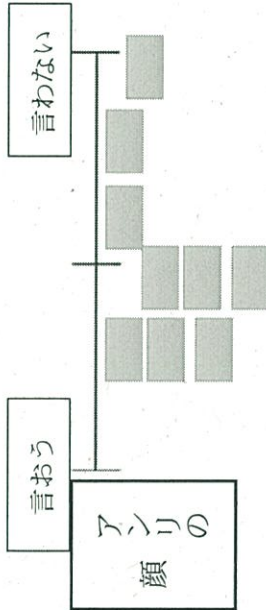
フレデリ
 ックの顔

アンリの
 顔

お父さん
 の顔

大よろこび よろこぶない

○お父さんの前でうつむくアンリ



- ・おこられるのがこわい
- ・お父さんは知っているのかも
- ・なんて言ったらいいかわからない
- ・言わなきゃお父さんが悲しむ。でも・・・
- ・どうせ、本当のことがわかる
- ・かげでいろいろ言われるかも
- ・すつきりする
- ・つみが軽くなる

○体をふるわせながら「ごめんささい。」

アンリ、お父さんやお母さんは・・・
 しかし、だからこそ明るく、どうどうと生きてほしいんだ。

- ・父のねがいをうら老つてはいけない
- ・こんなにほくのことを思ってくれていたんだ
- ・このままだと、心の中が、もやもやしたままだ
- ・父のじまんのむすこでいたい
- ・だまっていたらどうどうと生きられない

*この日のこと、一生わすれることができない

⑤ まちがったことをすなおに改めただろうか
 なぜそれが大切なのだろう

主題名「すなおになって」 内容項目「A(2) 正直, 誠実」

教材名「梨の実 アンリ=ファール」

③ねらい

体をふるわせながら、お父さんに謝ったアンリの気持ちを考えることを通して、過ちを認め改めることの大切さに気づき、自分自身に正直に明るく生活しようとする態度を育てる。

④期待する児童のふり返り

【道徳的価値の理解を基にして】

・悪いことをしたとき、悪かったと正直に言う気持ちよく生活することができる。

【多面的・多角的に考えて】

・もやもやしたままだといやだ。自分のまちがいをみとめることができるようになりたいけど、それは勇気がいることだ。

【自己を見つめて】

・正直に言ってすっきりした気持ちになったことがある。
・悪いことをしたけど、嘘をついて人のせいにした。

【自己の生き方について考えて】

・人に迷惑をかけることがあるかもしれないが、自分の心に嘘をつかず、素直に改めて気持ちよく生活していきたい。

① 児童の実態

・友達を大事にしよう→友達に流される
・自分の過ちを認めない→友達から信頼が得られない
過ちを認めることが恥ずかしい、悔しい

② 授業者が育てたい 判断力・心情・実践意欲・態度

・自分の過ちを素直に認め、改めることが、明るく生活することにつながることを、自分自身のためになることに気づかせたい
・自分に正直に明るく生活する態度を育てたい
(正直であることの快適さの自覚)

⑤ 発問構成

【導入】

- 事前に児童にアンケートをとり、その結果を提示し、「考えること」につなげる?
- アンリ=ファールについて紹介し、教材に興味を持たせる?

◎

まちがいをみとめ、すなおに改めることはなぜ大切なのか?

【教材を読んで話し合う】 まずはここから ◎:中心発問 → ○基本発問 ・切り返し

○お父さんの前でうつむいているだけのアンリは、どのような気持ちだったでしょう。

*特定の児童しか発言しないかもしれない。心のものさしを活用し、言おうか、言わないかでアンリ的心情を可視化してはどうか。

*グループで意見交換をすれば、多面的・多角的な考えを出させることができる。

◎アンリは、なぜ、体をふるわせながら、「ごめんなさい。」と言えたのでしょうか。

*グループでの話し合いか、書く活動を取り入れるか。→じっくり考えさせたいので、書く活動を取り入れる。

*「過ちを認め、素直に改める大切さ」だから、正直に言うことですっきりした気持ちになることに気づいてほしい。

・言わなかったら、ばれないのではないの。 ・全部弟が食べた嘘をつけば、怒られないでしょ。

・もし、自分が嘘をついたまま生活したとしたら、どうかな。

・正直に言っていいことあるの、怒られて嫌な気持ちになるだけじゃないの。

【自己を見つめて】

○自分は今まで、まちがったことを素直に改めてきたのだろうか、振り返ってみましょう。そして、なぜ、それが大切なのでしょう。

○教師の説話を入れる。(先生に嘘をついたら、先生はそれを信じた。そして、友達がしかられた。)

【終末】